

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

このたびは、名誉ある賞を頂きありがとうございます。受賞対象となった作業療法学科3、4年では、作業療法技術学演習と精神障害作業療法学演習を担当しています。授業を行うにあたって工夫していることは、「考えることの楽しさを感じる」「考えるためには基本的知識が土台となることを実感する」といった内容を心がけています。したがって、授業では、関係する事象の歴史的背景の解説や小ネタ、臨床の症例を多く取り入れ、“なぜ”“どうして”と考えながら能動的に授業に参加する環境を作り努めています。また、学生の思考の踏み台になるように、演習では教員のデモンストレーションを多く実施し、技術やコツを伝えると共に、“さらに効果的な治療にするにはどうしたらよいか”について常に考え、表出することを促しています。こうした関わりを通じて、効果的な作業療法を行うためには、勉強して知識を蓄え基盤をつくと同時に、その知識を患者や周囲の状況に合わせて柔軟かつ楽しく取り入れながら、治療を推し進めていく行動力が大切であることを伝えられたらと思いながら毎回試行錯誤しています。

● 学生への要望・アドバイス等

- 学生の真摯な姿勢や眼差し、何気ないアイディアに逆に感心させられ、触発されることが多いです。したがって、学生は教員から学ぶという姿勢だけではなく、教員を踏み台にするくらいの気持ちで、伸び伸び学び、考え、臆せず意見を表出してほしいと思っています。そうした教員と学生の相互作用で、良き医療、良き作業療法を対象者に提供できる人材に共に成長できるといいなあと思っています。
- 要求されたことをそつなく、無難にこなすことが上手な学生が多い一方、「へー、そんな見方もあるのか」と考えさせられるアイディアや意見を述べる学生が年々減少しているように思います。皆さん、もっと元気に、自由に、大胆で良いのではないのでしょうか。教員が想定している「正解」とはひと味違った発想が皆さんから生まれてくることを期待しています。